

国際交流基金事業外国人学識者招請プログラムによるスコット・ドゥレイク准教授の招聘

理工学研究科建築学専攻国際建築都市デザイン系(I-AUD)では、国際交流基金事業外国人学識者招請プログラムを活用し、チュラロンコン大学建築学部国際建築デザインプログラム International Program in Design and Architecture (INDA) のスコット・ドゥレイク Scott Drake 准教授を、2017年5月27日から6月3日までの8日間、本学中野キャンパスに招聘した。オーストラリア出身の氏は、タイを中心とする東南アジアの気候・風土における、建築および都市環境の環境行動に関する研究を中心に、2011年からチュラロンコン大学INDAにおいて教鞭をとっている。

招聘期間中に氏は、INDAの学生14名と本学I-AUD学生25名が参加した1週間のワークショップ「Streetscape + Activities in Japan」におけるアーバン・スケッチのためのフィールド・ワークに参加し、その最終講評会において講評を行った。本ワークショップは、両校の学生が教員と共に街に出て、歩行者のアクティビティや空間スケールなど各自の興味に沿った対象をスケッチし、最終的にその成果をテーマに沿ってまとめ発表するものである。フィールド・ワークは、中野、表参道・青山、下北沢、銀座・丸の内において実施した。

さらに、本ワークショップに先立ち氏は、バンコクにおける人々の行動と都市空間に焦点をあてた「Urban Code: Bangkok」と題する講演を行った。熱帯に属するバンコクでは、都市における人々の行動様式が日本と異なり、それに応じて都市空間の在り様も異なる様子を、氏は多くの写真を示しながら、ユーモアたっぷりに英語で語ってくれた。

氏の講演を聴講した本学の学生は、都市における人々のアクティビティは、気候や風土と密接に関係し、都市空間をデザインするには、気候や風土、またそれに伴う人々のアクティビティのあり様を十分考慮することの重要性を認識できたようである。そして、それに引き続き行われたアーバン・スケッチ・ワークショップでは、氏の講演をもとに、都市空間のスケールや人々のアクティビティなどに焦点をあて、数多くのスケッチを描いた。その成果をまとめて発表した最終講評会では、スケッチに込めた思いやその表現手法などに関して氏をはじめとする教員たちから質問され、活発な議論を繰り広げた。本ワークショップは、日頃あまり行う機会のないスケッチのスキルの向上に役立つとともに、チュラロンコン大学の学生と英語で交流する貴重な機会となった。



中野におけるフィールド・ワークの様子



ドゥレイク准教授による講演の様子



ワークショップの最終講評会の様子